

第1回 氷見市総合計画審議会第3部会 会議録		
日 時	令和2年11月20日（金） 13時30分から15時30分まで	
場 所	氷見市役所 全員協議会室	
出席者	委 員	伊藤宣良、川田文人、佐伯三美子（代理：山田）、清水賢一、中村剛、寺下利宏、松井俊成、松原勝久、脇信昭（出席9名）（欠席2名：西山知克、森本太郎）
	市関係職員等	京田企画政策部長、事務局（地方創生推進課）
次 第	1 開 会 2 企画政策部長あいさつ 3 第3部会委員の紹介 4 議事 (1) 会長及び副会長の選出 (2) 諮問 (3) 第9次氷見市総合計画の策定について (4) 氷見市の現況等説明について (5) 意見交換について 5 その他 6 閉 会	
資 料	【説明資料】 資料1 氷見市総合計画 体系図 資料2 第8次氷見市総合計画後期基本計画進捗状況 資料3 氷見市の10年後を見据えて 【参考資料】 冊子 第8次氷見市総合計画 冊子 第8次氷見市総合計画 概要版 冊子 氷見市の10年後のありたい姿	

1 開 会

（司会）

定刻となったので、今から、第1回氷見市総合計画審議会第3部会を開催する。

2 企画政策部長あいさつ

（企画政策部長）

皆さんには、多用の中、第1回氷見市総合計画審議会第3部会に出席いただき、御礼申し上げます。

また、日頃から、市政の発展に格段の支援、協力を賜り心から感謝申しあげる。

さて、9月25日に第1回氷見市総合計画審議会が開催され、市長から第9次氷見市総合計画の策定について諮問された。

本計画について市長からは、人口減少や高齢化社会に対応した第2期「氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略」や、新型コロナウイルス感染症などに伴う社会環境の大きな変化などを踏まえ、氷見市の将来に向けた計画となるよう、委員の皆さんに審議をお願いしたところである。

本日の第3部会においては、「10年後のあるべき姿（基本理念）」「10年後のあるべき姿を実現するために注力するべき柱（基本目標）」に関する事項について、議論いただきたい。

委員の皆さん方においては、忌憚のない建設的な意見などを賜りたい。

(資料確認)

資料について説明・確認

3 委員の紹介

出席者、委員代理出席者、欠席者の紹介

4 議事

(1) 計画体系図について

(2) 第8次氷見市総合計画後期基本計画の進捗状況について

(事務局)

議事進行は、部会長にお願いします。

(部会長)

資料1「氷見市総合計画体系図」および資料2「第8次氷見市総合計画後期基本計画の進捗状況について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

「資料1 氷見市総合計画 体系図」「資料2 氷見市総合計画後期基本計画進捗状況」を説明

(部会長)

今の説明に対して、意見や質問は。

(部会長)

個別の施策の結果については、説明を頂いたが、計画全体としての総括はどういうイメージか。

(事務局)

計画全体の推進というところでは、社会情勢の変化もあり達成できていない部分もあるが、全体的には概ね計画は順調に行われているのではないかと考える。

(委員)

第8次氷見市総合計画についてということだと思うが、今日の話からすると第9次にどのように繋げていくかということだと思うし、後ほど、その話し合いの機会があるが、10年後にどうなっていくかということが想定される中で、第8次の評価を細かくし過ぎるがゆえに、そこだけに捉われて全体の大きな部分が削がれてしまっている部分があるのではないかと感じを受けている。例えば、「元気づくり」について、私も関わっていたのですが、全体的なお金の流れがどうなっているのかということも含めて考えると、少し細かすぎるのかなという気がする。大きな部分を見逃さないようなやり方を今度は念頭において欲しい。

(部会長)

他にあるか。

(委員)

こちらは第3部会ということだが、今お話しいただいたのは部会のジャンルを含めてだと思うが、具体的にこの後どういう風に話し合いをするのか、理解できていない。今ほどの話しですとまず全体の話しがあり、それから、資料1でもこれから決めて欲しい基本目標等全体の話しですが、他の部会はどうなっているか。

(事務局)

部会は全部で3つございますが、今回第3部会で審議頂く内容と同じ内容、同じ項目につきまして、他の部会でも審議頂き、最終的にそれを合わせる形や全体の会議等を通じて整理していく方向性を考えている。特にこの分野を中心にとということではなく、広く意見をいただければと考えている。特定の分野に強く意識していただいても構いし、また、その他の分野も意識頂き発言されても構い。

(事務局)

第8次の説明を受けて、今ほどの発言でもあったようにトータルでどうだったのかという評価も必要だったと思っている。そこは、どのように評価するかという手法も難しいが、このA3の評価シートからすると、例えば、Aの数、Bの数で評価するのか分かりませんが、Bの数がそれなりにあるとすれば概ね良好なのかと、誠に大雑把ではありますが、そういう考え方もできるのかなと思う。現状を踏まえて、10年というかなり長い期間の話で、時代の流れ特に現在は変化が激しいので、これから大事なゼロカーボン社会であるという話もあり、今の第8次の中ではどのようなことで入っているかとするとポイントがそこまで至ってなかったかも知れないということもある。そういった時点で、現状ではすぐわない分、これから必要となってくるポイントや第8次の当初では良かったかも知れないが、現状進め難かった施策は何であったのか、そういったことの現状を少し振り返っていただき、これからの氷見市に必要な点等をこの後の部会も含めて議論、意見をいただければと思う。個別にみると、確かにC評価の施策があり、反省すべきところもあり、それは状況が変化して致し方ないこともあるが、そういうことも含めて意見をいただければと思う。

(委員)

今ほどの説明の中に広域行政等の推進がありましたが、これはK P I を設けているから県の施設等の誘致に絞られてしまう。K P I に縛られ過ぎている感覚が少しある。本当の目標とは何なのかということ、数値目標を出し過ぎると、どうなのかなと思う。評価はある程度しなければならないと思うが、その辺りはうまくできないのかなと考える。

(事務局)

K P I の数値を達成するために事業をして、その次の施策や基本目標等にあまり考えが及ばずに数値をこなすような形で行ってしまっているということなのかも知れない。

イノシシの処理を羽咋市と連携して行っていたりしたこともあったが、広域行政という部分では、幅広く取り組んで枠を作らずに柔軟に捉えることも大事なかなと思う。

(部会長)

K P I はいくつ作らなければならないということがあるか。県でもK P I が多すぎて、K P I になっていないという感じである。

(事務局)

K P I が達成しているからといって、事業や施策が推進、実行されているかという点必ずしも一致しているものばかりではない。

(委員)

コロナ禍になってから全てが全部変わってしまって、前回は話したが、古代の遺跡のような感じがする。第9次を見てもリアリティがない。コロナの話が出てくるのは国際化動向の話である。もう国際化ではない。新しい生き方を考えていかなければならない観点から物事を見ると、これまでのK P I ではなくて、新しい課題をしっかりと把握した上でどうすべきかということをやらなければならないので、もう捉われない方がいいのではないかなと思う。様々な危機がくるので、隠さずに皆出した上で、どうすればより良い方向に進むのか、教育も観光も文化も第9次は最初から考えた方がいいのかなと、リセットしてやればいいのかなと思う。

(3) 基本理念について

(4) 氷見市の10年後を見据えて

(部会長)

議題の(3)基本理念について、(4)氷見市の10年後を見据えてをまとめて事務局から説明を願う。その説明を受けて意見交換をおこなっていきたいと思う。

(事務局)

「参考資料 第8次氷見市総合計画P24、第8次氷見市総合計画概要版P6」「資料3 氷見市の10年後を見据えて」を説明

(部会長)

氷見市の10年後を見据えて、第9次氷見市総合計画の柱的なものを資料3で示して頂

き、参考資料でワーキンググループの意見等が紹介された。基本理念、目指す都市像、基本目標についてはこの後別途時間を取るのだから、今の説明についての皆さんの意見、質問をいただきたい。

(委員)

第3部会の方は産業に関係のある方々である。産業に絞って検討するのかと思っていた。3つの部会に分かれているのだから、各専門分野で基本目標や基本理念を議論するという理解をしていたが、そうではないのか。

(事務局)

すべてのことにおいて、議論して頂くことになる。最初に説明が不足しており、申し訳ない。

(委員)

細かなことの議論はせず、10年後の大まかな話しを議論するのか。スペシャリストが集まっているのに自分の能力を発揮しにくい感じである。

氷見市にたくさん人呼んで氷見市の商業を活性化することを提案しているスペシャリストもいるし、様々なことをコネクして産業創出しようとしているスペシャリストもいるし、農業を発展させようとしているスペシャリストもいる。その中で、基本理念は少子化社会に向けてがんばろうみたいなものだけで良いのかなと思う。第8次から第9次が変わる時に第8次策定時と第9次策定時では、社会がとても変わっていて、それなのに前の意見をそんなに確認する必要があるのかと思う。第9次の時に人口が2万人になったら10年後どうしていくか、当然自動車は全部オートドライブになって山の中の自動車は運転手もいないと思う。もしかすると免許証もなくなる社会が少しずつできていると思う。産業を呼ぶということでしたが、氷見市の人口が減っていても他のマーケットと組み合わせることで、自立可能な都市にはなるのではないかと、大企業もこういうことを考えているので、そういうものを勉強しながら10年後の計画を立てていくことが必要だと思う。氷見市に若者が残るということはすごく大事なことだが、稼げないと多分残らない。企業の想いは大事だが、現実的に年収400万円程無いと生きていけないので、具体的に追及していく政策が必要で、それをさせるために勉強会や新しい産業を支援する補助等を政策の中に入れれば良いのではないと思う。

(委員)

私は農業をしており、子や孫の基礎的食糧を生産している。氷見市は基礎的な食糧は100%以上である。森林や水田、海の自然環境をしっかりしていかなければならない。ITやリモート等を活用してどういう氷見を目指すのかということをお皆で考えなければならぬのではないと思う。

(委員)

氷見市のベストモデル構想をしていかなければならないと思う。農業はだいぶ崩壊しているから効率よくしてかつビジネスとしてお金を儲けられるようにする一方で、土地を提

供する人や一極集中で中心市街地に集約するコンパクトシティ化の方法もあると思うが、そういうことを考える時にいくつも分けるとそれだけに執着してしまい連携がなくなってくる。例えば、氷見市の10年後を見据えてという中に安全・安心な暮らしの確保とある。今は新型コロナウイルスの感染拡大が問題になっているが、これが終息してもまた新型のウイルスが出てくる可能性が高いと言われている。その時々のことばかりではなく、その先々に起こりうることも見据えた対策を考えることが必要だと思う。災害対策基本法はあるので、新型ウイルス対策法のようなものをつくり、氷見市の飲食店はそれに則ったものでないと開業できない等の決まりをつくれれば、氷見市の飲食店はしっかりしている、安心であるということになる。きちんとしたものが構築されていれば、他地域から氷見市に来てもらう際に安心につながる。そういうものをこの安全・安心な暮らしの確保の中に入れていくことは観光産業にもつながる。一つの枠の中に全部入れてすべきである。これだけと喋ると担当者がこれだけしかしなくなり、他のことは知りませんということになる。全てが連携している訳であるから、氷見市がこれからの10年、日本で一番のモデル都市としてどうあるべきかというのを考えていった方が良くと思う。ITにも強く、ウイルスにも強く、災害にも強い、そのようなまちに住みたいと思いませんか。そういうまちをつくりましょうという発信型、外へ発信できるようなものをつくっていけば良いと思う。そのためには、どのような項目が必要か箇条書きでも良いから書き出していくとつながられるような気がする。

(部会長)

議論が自然と氷見市の10年後の姿はどうするかという基本理念に移っていきましたので、今9項目出されていますが、氷見市をどうすれば良いのかということをお皆さんの想いをそれぞれ述べて頂きたい。

(委員)

先ほど述べたとおりで、10年後どのような姿を目指すかということなかなか難しいことで、第8次の場合は食を未来につなぐということで、都会の方々が食を通して魅力を感じてもらえるように目指すのが良いのではないかと思います。食の安全、自然環境も含めて10年後の姿を考えていけば良いのではないかと思います。

(委員)

氷見市のために様々な企業の方が取組や提言されていると思う。商工会議所の女性会からは提言は出されていなかったもので、個人的な意見を述べさせて頂く。観光に携わっていることからその視点での話になりますが、昨年5月に岐阜県飛騨市古川にお客様を案内することがあり、その前に下見に行ってきた。そこで、中学生の男子生徒3人と宅配の社員の方にすれ違う際に「こんにちは」と挨拶された。立て続けに初めての方に挨拶されたことにびっくりしたが、その挨拶されたことがとても気持ち良くてまた訪れたいという気持ちになった。

(部会長)

氷見市もそうなれば良いということか。

(委員)

そういうこと。富山県には食や自然等良いものがたくさんある。先ほど、元気づくりの氷見の食・ブランド確立の食を活かしたまちづくりで、商品の開発ができなかったということが意外で、食を推していくのであれば、開発をしていって欲しいと思う。

(委員)

私の持論ですが、雇用を生まなければ人は着かないのではないかと思う。雇用のチャンスについては、少子高齢化を解決するという話しがよく出てくるが、高齢者なら高齢者に優しい住み良いまちにして、例えば高齢者の天国のような市に特化してしまうのも一つの考えなのかなと思う。高齢者に対するサービスの雇用が生まれると思うし、医療関係の充実、公共交通の充実等も発生すると思うので、それらを含めた明るい未来が見える計画をつくりPRすることが必要だと思う。

(部会長)

高齢化社会を見て、高齢者の住みやすいまちづくりを目指すアイデアを出されましたが、様々な意見があると思う。皆さんからも様々なアイデアを頂きたいと思う。

(委員)

明るい光が見えるまち。生活や老後等が明るい光が見えて欲しい。会議や会合等に行くと暗い話しが出て、コロナ禍だからという話しが出てくる。コロナ禍の中でも明るい話、新しい取り組み、その新しい取り組みを常にしていくべきだと思うが、新しい取り組みにはお金がかかるので、その取り組みを応援する氷見市であって欲しい。これは市中の金融機関、補助金等の支援で、若者達が氷見市で起業する等それによって雇用が生まれる等、呼ぶだけではなく生み出すことのサポートをして欲しい。氷見市で起業して住めばサポートしてもらえということであれば、定住にもつながり、家族も連れてくるということになる。雇用が生まれれば、税金も入ってくるので、高齢者にも手厚い未来が待っているということが理想である。育てる氷見市が良いと思う。新しい取り組みを柔軟に受け入れる氷見市であって欲しい。

(委員)

皆さんから良い意見が出ていますが、自然環境をどうするかということに関しては何も意見が出ていない。230km²の面積がある氷見市ですが、自然をどのような形でというような話しは何もなく、例えば、農業や林業、水産業の一次産業は人の手を一番かけなければならぬ仕事が多くある。その辺りの話しが全く出ていないので、寂しい限りである。林業で言えば、氷見里山杉活用協議会等いろいろと活躍して頂いているが、60年、70年経った杉の人工林を活かす話し等がない。林業は、人口減少、高齢化で後継者がいないという状況であるが、機械化でスマート林業に取り組んでいくということになっている。基本は機械を入れる作業や道路整備がないとできないが、その辺りの話もない。それから鳥獣被害で熊やイノシシ、鹿が出る。それらのことも基本的にしていかないと人間が檻の中で生活していかなければならない状況になる。後継者不足も心配である。皆さんが話しているまちづくりも

大事ですが、生活基盤に関わることをどのような形にしていくかということも大事である。

(部会長)

里山を含めた自然をどのように発展させていくかが課題である。

(委員)

問題は多々あるが、住み良いまちをつくるの一語に尽きるのではないか。それを考えると、里山、里海を守ることは本当に大切ですし、皆さんの一人一人の生活を守っていくことも大切ですし、様々なウイルスに対応していくことも大切で、全てが安全・安心につながることである。ここで相当の大風呂敷を広げて、例えば、日本一安全で安心で住み良いまち、コンパクトなまちなのでつくれると思う。ニーズが少ないので、様々な決まり事をつくってもできると思うので、それぐらいの気概でした方が良いのではないかと思う。

1つ質問ですが、令和2年の総合計画施策評価のシートの元気づくりの将来に夢が持てる雇用の創出の企業誘致の推進と既存企業の育成がA評価になっているが、企業誘致はどれくらいあったか。

(事務局)

そのKPIですが、市内に進出した企業または研究機関への支援件数ということで、企業の誘致件数ではない。KPIは2つありまして、1つ目は今のことで、もう一つは設備投資を実施した既存企業への支援件数としている。その部分で目標をクリアしている。施策とKPIと一致しておらず申し訳ない。

(委員)

氷見市だからということがあまり見えていない。総合計画というのはそういうものなのかも知れないが、氷見市の森林という点で人口にみるポテンシャルは富山県一である。持っている体積、木を植えて育つ力、富山県で氷見市と高岡市、小矢部市の一部だけが、緩やかな斜面の山があることから森林での作業が大きくできるが、他は危なくてできない。そういったことから見てもひとつのポテンシャルを林業で持っている。農業では、小規模だけど特長を出してがんばっている。そういったポテンシャルをしっかりと引き出し、ブラッシュアップしていくことが大切である。その中で対外的にPRが必要である。日本列島同じことをやるというよりも氷見市は非常にコンパクトで、山があつて、海があつて、おいしいものもあつて、農業、林業、まちもあつて、当然文化もあつて、そういったアドバンテージを見つけてブラッシュアップしていくことがまず一つ大事だと思う。それプラス時代の潮流という先の流れを先取りして、人がやる前に一歩先にやるそれぐらいのビジョンを持ったものがあれば良い。

(副部会長)

第9次氷見市総合計画の9項目全てではないが、付け加えるべきだと思うことがある。自身についても、もっと深く意見を申し上げたいところではあるが、大きく言えば行動的にものを考えた方が良くと思う。地域の自立についても役所からではなく、例えば経済界からのもの見方で構造的に今どうなっているから何をしなければいけないかということを見ら

れるようなものがあつたら良いと思う。それぞれの項目で意見を申し上げたいと思うが、それはおいて置き、こういうことをやることにより持続可能が生まれてくる。氷見市にとって選ばれる市になるにはどうすれば良いのか、これは外からばかりではなく、市民にとってもやっぱり氷見で良かったというものにしなければならない。そういう観点をしっかり持って欲しい。そういう目で見ると目指す都市像というキャッチコピーではないけれど、ここにある程度表せられるものは非常に大事なものだと思う。今までの第8次で言えば、内容的には踏襲する必要があると思う。だけれど、これからもっと付け加えなければならない。その文言は非常に難しくなりますが、氷見市ならではという部分は載せるべきだと思う。安全・安心も含めて。その辺りが今、氷見の都市像になるのかなと思う。ただ、自然があつて、環境に優しいという部分だけで良いのかというのではなくて、一歩進んだ防災であつたり、センサー機能を付けて人よりも早く情報キャッチができるそれを市民に伝えられるそれだけでも安心につながる。そういうのは5Gを使つても良いと思う。それは通信と放送が融合する形になってきている。先ほどそれはお金がかかるという話がありましたが、光ファイバーは全域にいくようになってきている。光ファイバーでいって5Gに飛ばすことも可能になってきているので、非常に氷見市は先を行っている。そのようなことを防災にあてがうことも大事ですし、ICTも含めてどんどんアピールできるような氷見市が目指す都市像のかなと思う。

(部会長)

都市像というスローガン、ここに集約されてくると思うが、皆さんいろいろアイデアを出して頂いて、基本線として私達はどのような氷見市で5年、10年後でありたいかということ言葉を表した上で皆さんもっとアイデアを出していただけないか。

(委員)

第8次の「人 自然 食を未来につなぐ交流都市ひみ」ですが、私は市の審議会で農業のことはあまり言わないようにしていたのですが、未来につなぐと書くならば、自然、食を大切にす、氷見市民は大切にすというアピールが都会の人が住みたいと思うことにつながるのではないかと思う。

(部会長)

氷見市の良さ、氷見市の強さは全国一だというアピールをどういうところに、どういう点をアピールしているのかというところだと思う。どうしても一般的なありきたりの表現になってしまうので、先ほどから意見が出ているように第9次氷見市総合計画そのものが氷見市のセールスポイントになるというようなものをつくろうとしていくのであれば、都市像や理念に氷見市の強さ、氷見市らしさを都市像に何を盛り込んでいくのかということをお皆さんの意見を頂戴しているので盛り込んで頂ければ良いと思う。3つある部会から出てきた意見を事務局が取りまとめて来年初頭の審議会で全体に図るという流れになっている。それぞれの皆さんの意見を反映して頂くために積極的に発表頂ければと思う。氷見市はこういうところが日本一になるのだという目標の部分で意見はあるか。

(副部会長)

一流の田舎という言葉を使うとややこしくなりますが、何となくそこに集約されている感覚が私はある。世界農業遺産に申請している。定置網が中心ですが、考え方としては全域に網羅している。このタイミングは非常に良く、氷見市のイメージそのものなのかなと思う。そこに今の通信を含めた生活環境の良さを加えることが氷見市の都市像になってくるそのようなイメージである。

(委員)

私は氷見市の農業のことをよく聞かれるのですが、日本全国を見渡すとみかんを主力で栽培している、梨を主力で栽培しているというところ等がある。それに比べて氷見市は、少量多品目である。私は、多様な知恵を出したバランスを取った農業と説明している。氷見市全体を考えても同様のことが言え、農地があり、海があり、中山間地があり、工場がある。これに雇用や介護・福祉、子育て等を織り交ぜれば非常にバランスが取れて整っていると思う。氷見市の若者は、高岡市で住んでいる状況であるが、氷見市に住み高岡市に勤めに行くこともできるし、首都圏での仕事も（リモート等で）できるのではないかと思う。食もおいしく、自然もある、雇用もあるというバランスがとれ、クオリティーが高いと思う。そういう氷見市であり続け、更にそれを高めていくことで、首都圏に出て行った若者も氷見市に戻ってくると感じる。

(部会長)

氷見市は本当に良いところなのに、その良さがなかなか認めてもらえない気がする。

(委員)

氷見市は地産地消が進んでいる。このことも発信が不足していたと思う。

(部会長)

基本理念、目指す都市像はどうか。この9項目も基本目標に従っているか。

(事務局)

そうとも限らない。

(部会長)

計画を立てていくための視点で、これがこのままではないということか。

(事務局)

現在の状況を踏まえて、そういう区分にしたら良いかということで挙げている。

(部会長)

基本理念、目指す都市像といってもなかなか決めきれない状況である。皆さんから多様な意見を頂いたので、後は事務局で残りの部会の意見も聴取してつくって頂ければと思う。

基本目標について、9項目がありますがこれは考えるヒントとして出されてということである。基本目標として、先ほどから意見が出ているが、あらためて付け加えることはあるか。9項目には全てのことが網羅されているけれど、もう少し第3部会に關した項目が入っていても良いのかなと思う。

(委員)

私もそう思う。雇用や産業、自然の項目があっても良いと思う。

(事務局)

第8次氷見市総合計画で基本目標に掲げていたのは、「暮らしづくり」「人づくり」「元気づくり」で、行政的などころでは、「持続可能な自治体経営の確立」としていた。今回9項目として出させて頂いたのは、現状内容を踏まえてどのような基本目標にするかということを出せて頂いた。昨年度つくった「まち・ひと・しごと創生総合戦略」でいくと、「住みたい街」「働きたい街」「育てたい街」とおり、氷見市総合計画の「暮らしづくり」「人づくり」「元気づくり」とは少し違う基本目標を掲げていたので、今度第9次においてもこれまでも3項目、4項目でしたので、どのような区分にすれば良いかと思っている。先ほどあまり垣根を設けない方が良いのではないかという意見もいただいたので、もう少し横断的にフレキシブルに動けるようなという意見やこの一つに向かって全力投球しようという意見等を頂いて、調整させて頂ければと思っている。

(副部会長)

氷見市に入ってくるお金が1,800億円で、中で回っているお金が1,200億円で、循環率でいうと約66%が回っている。この数字が低すぎる。外からもっと入れるお金を増やす必要があるのと、中でどれだけ回すかということもある。この構造を目標に入れて良いのか否かはなかなか難しい。ちなみに高岡市は100%を少し切る90数%で、富山市は約110%となっている。それは構造的な問題があるのではないかと私は思う。それをある程度解消することが、地域経済や様々なことに波及する。これを入れて良いのか分からないが、それぞれの数字を出さずに、それぞれのここをがんばればそうなっていくというものに網羅すれば良いのか分からないが、私はそこがいつも気になって仕方がない。

(部会長)

基本的には、小売りの域内消費が少ない。

(副部会長)

少ない。外にお金が出ていってしまう状態。立地的なこと含めて難しい部分はあるが、もう少し増やさないといけない。先ほどの広域のあり方も考えなければならない。構造的なものも視野に入れたものがあるかもしれないと思う。

(委員)

一流の田舎はきっとタクシーで買った食品を運んでくれたり、そういうのはあると思う。田舎では、タクシーが100円バス状態で走っていることもある。タクシー会社に聞いたら、行政の補助でやっているし、我々も努力してやっていると言っていた。その日その路線に2人しか乗らないのなら、バスを動かすよりタクシーを動かした方が安い。観光客であっても地元住民であっても高齢者で免許証を返納した人だったら、30分に1回くらいはタクシーやバスが動いていれば良いと思う。住みやすいところは町の人も田舎の人も便が良くて、買い物してもそれを運んでくれる等、そういうところで消費を伸ばすやり方もある。私は一

流の田舎大賛成。また、何度も言うが、安全・安心のところに自然災害やウイルスにも常に対応しているのだということの説明書きのところに入れておいた方がいいのかなと思う。

(部会長)

それは危機管理対応の部分か。

(委員)

全てにおいて安全・安心。観光においても持続可能な循環となっているが、「安全・安心で持続可能の方が良い。安全で安心な」をあたまにに入れてほしい。氷見市を一流の田舎にしてたくさんの方に安全・安心できてもらえるようにしていくことである。

(部会長)

今は非常に変化が激しい時代であるから、戦略さえうまく立ててやっていけば、氷見市はトップランナーに絶対になっていくと思う。この時代こそチャンスと捉えて良い計画をつくっていききたいと思う。

(部会長)

委員の皆さんには大変貴重な意見を賜り感謝申し上げます。本日委員の皆さんからいただいた意見について、事務局の方で第9次氷見市総合計画の基本構想を作成する際に反映して頂きたいと考えているので、よろしく願い申し上げます。

以上で本日予定していた議事は終了した。委員の皆さんには、議事の進行に協力頂き感謝申し上げます。

それでは、進行を事務局に返す。

(事務局)

部会長、ありがとうございました。

限られた時間の中で、委員の皆さんにおかれましては十分な意見や質問を発言いただけなかったのではないかと思います。意見や質問があれば、事務局である地方創生推進課まで連絡いただければ幸いと考えている。

また、本日の「第3部会」のほか、今月24日に「第2部会」、27日に「第1部会」を開催する。3つの部会の議事録などを取りまとめ次第、審議会委員の皆さんにお送りし、審議会の会長、副会長にも渡しする。

この後2月に予定しております審議会で、第3部会の報告で議事録にまとめたものから抽出したもので第3部会の報告をまとめさせて頂く。そちらにつきましては、部会長と事務局で調整させて頂く。

5 閉会

(企画政策部長)

皆さん、長時間に渡り数々の意見等感謝申し上げます。私達は部会をどのように進めていけば良いか苦心しておりましたが、素晴らしい意見を頂いた。個人的な感想になるが、氷見市の素晴らしいところをもっともっと私達自身が自覚をし、発信していくということがなけ

ればいけないと思った。豊かで、安全で安心なまちなのだということに自信をもって発信していかなければならない。その上で誰にとっても住みやすく、更には雇用を創出していけるようにしていかなければならない。総合計画ですので、いろいろなことの総合力が大事だと思うが、そのための施策を数々これから組み入れていく必要があると思った。今日頂いた様々なキーワードは集約をさせていただき、第9次氷見市総合計画、基本構想につなげていきたいと思う。今後とも、指導、意見をよろしく願います。本日は、ありがとうございました。

(事務局)

以上をもちまして、第1回氷見市総合計画審議会第3部会を閉会する。

ありがとうございました。